

和歌山商業高等学校

実施日時	令和3年10月29日(金)、11月1日(月)
参加者	11/2 生徒260名、教職員14名、計274名 11/9 生徒806名、教職員60名、計866名
実施内容	10/29(金)地震津波基礎講座 11/1(月)避難訓練

ねらい

近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する専門的知識や技術を習得させ、地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

1 地震津波基礎講座



2 避難訓練



概要

- 1 地震津波についての基礎、防災、減災のために必要な知識を得る。
- 2 避難訓練 南海トラフ巨大地震に備え、集合場所への迅速な行動、点呼・確認方法の訓練を行う。震度5強から6弱の地震の激しい揺れに対し、校舎は倒壊しなかったが、教室や廊下の窓ガラスが割れ、天井や照明器具が落下。火災は起きておらず津波警報が発令されている想定で避難訓練を実施。

参加者感想文

・日頃から家具の固定をしたり、家族といざという時のために避難場所などを話したり、避難バッグや備蓄品の用意など、災害に備えて対策をしないといけないと思いました。

・外で地震が起こった場合、自分の身を守るだけではなく他の人も見て、安全な場所へ誘導したり声をかけたりするなどして、出来る限りの事をしようと思いました。

成果と課題

【成果】

今年度より、避難訓練では屋外へ避難するのではなく垂直避難をキーワードとし、校舎の三階以上へ避難することに変更をした。初の試みに加え、新型コロナウイルス対策についての不安もあったが、スムーズに、粛々と全校生徒が校舎の三階以上へ避難することができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、屋内での活動は控え、1学年のみの講演会と避難訓練の実施のみとした。最も大切な「命を守る」ということを前提として、防災・減災を意識した内容だった。

【課題】

来年度以降、どのような状況になるか不透明だが、感染予防対策も含めて、地域の高校として、災害時にどのような役割や活動ができるのか、可能な限り実現できるよう計画・行動していくことが必要である。自治会や保育園、小中学校と連携して減災を目指し、災害時に避難所運営や防災リーダーとして高校生が積極的に活動し、地域に貢献できるようにしていくことが今後の重要な課題である。